伝承
未来へ紡ぐ、尾道の心
JCLIFE
2025年12月号
JCI 一般社団法人尾道青年会議所 http://www.ojc.or.jp/ 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL：0848-20-1110 FAX：0848-20-1112 E-mail：ojc@urban.ne.jp Facebook：http://www.facebook.com/isojcnow

11月例会 バッジ授与式

11月17日（月）尾道国際ホテルにて、テーマを「知れば繋がる、仲間の魅力」と題し、11月例会を開催いたしました。

本例会では、日頃なかなか見ることのできないメンバーの魅力に触れていただき、相互理解と親睦を一層深めることを目的として開催いたしました。

魅力ある組織づくり推進委員会・髙橋委員長の強い想いのもと、メンバー同士が互いの人柄や価値観を共有し、より円滑で信頼性の高い組織運営につなげるべく実施いたしました。

委員長からは、1年間の活動を振り返りつつ、「うちの幹事は〇〇な人」と題し、委員会メンバーのみが知る幹事の新たな一面についてご紹介いただきました。

幹事からは「うちは〇〇な委員会」と題し、1年間の活動を振り返り、委員会紹介及びメンバー紹介を頂きました。

本例会を通じて、メンバー一人ひとりの魅力や日頃の姿勢を改めて共有することができ、組織の基盤である「信頼」と「絆」の深化につながる大変有意義な時間となりました。

バッチ授与式では、新入会員バッジ授与式を執り行いました。新入会員14名の皆さんが正式に尾道青年会議所の一員としてJCバッジとネームプレートを山本理事長より授与されました。

新入会員の皆様、ご入会おめでとうございます！

これから共に尾道のまちを盛り上げるため、楽しんでJC活動をしていきましょう！

（記事：魅力ある組織づくり推進委員会 幹事 笠井 健太郎）

ベッチャー祭り

11月1日（土）～3日（月）に尾道三大祭の1つ「ベッチャー祭り」に私たち尾道青年会議所から今年もたくさんのメンバーが参加をしました。

私たちメンバー一同は奇祭と主役とも言われる「ベタ」「ソバ」「ショーキ」の三鬼神とシシの周りでサポートを行う小太鼓班と、迫力満載の神輿巡業の周りサポートを行う神輿班に分かれ尾道のまちを練り歩き盛り上げて参りました。

全日程において天候にも恵まれ、地元・観光客問わず老若男女大勢の方が訪れ大盛況となりました。まちのたからである大祭に様々な場面で携わって貴重な経験をすることできたこと。またメンバー一人ひとりが宮の一員としての自覚を持って積極的に参画をし、協力し合って無事盛況のうちに終えたこと。これらに感謝をするとともに、今回得た経験を今後のJC活動に活かして参ります。

（記事：セクレタリー 塚本 善昭）

ONE ONOMICHI

11月8日（土）、尾道駅前緑地帯にて尾道市合併20周年を記念し、北は御調、南は瀬戸田まで各地域の飲食店や団体を集め、尾道の魅力を堪能していただける「ononomichi～みんなでつくる 私たちの尾道～」を開催しました。

中央のステージでは神楽や太鼓、ダンスが行われ、歴史ある文化から現代に至るまでのパフォーマンスを楽しむことができました。終盤には尾道に関する4択クイズを行い、多くの方に参加していただきました。

会場では尾道を代表する飲食店はもちろん、ステージでパフォーマンスをした神楽や太鼓の展示や体験が行われました。普段触れることのない大きな太鼓を鳴らしたり、神楽で使われていた衣装や大蛇を間近で見ることができ、ステージでのパフォーマンス以外でも来場者に楽しんでいただきました。

「みんなでつくる尾道地図」では、地元の方を中心に思い出の場所や行ってみたいお店などを付箋に書いて貼っていただきました。来場された地元の方には積極的に協力していただき、大変嬉しく思いました。観光客の方は地図を参考に、翌日の計画を立て直す方もおられました。

当日は天候にも恵まれ、多くの方に来場していただきました。ご出店、ご出演、並びにご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

（記事：魅力ある組織づくり推進委員会 委員長　髙橋 諒祐）

秋季 ゴルフ大会

11月23日（日）、尾道うずしおカントリークラブにて開催いたしました秋季ゴルフ大会（追い出しコンペ）は、秋の訪れを感じる絶好のゴルフ日和に恵まれ、和やかな雰囲気の中で行われました。

当日は多くのOB諸先輩方にご参加いただき、プレーを通じて懇親を深めながら、楽しいひとときを共有することができました。

今大会で優勝に輝かれたのは村上弘一先輩、そしてベストグロスは村上康先輩でした。

村上弘一先輩、村上康先輩、誠におめでとうございます！

ご多忙の中ご参加くださいました皆様に、心より御礼申し上げます。

次回の春季ゴルフ大会は、3月21日（土）に開催を予定しております。

皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

（記事：原田 寛）

あつまれ たいけんの森

11月30日（日）、尾道市総合福祉センターにて、未来の宝育成事業「あつまれ たいけんの森～キミの夢中を見つけよう～」を開催しました。当日は、1,000名を超える方にご来場いただき、会場は開始直後から多くの親子でにぎわいました。

今回の事業では、子どもたちが自分自身の興味や得意を発見できるよう、ものづくり、スポーツ、文化体験など多様な分野から15種類の体験ブースをご用意しました。工作ショーで身近な素材が次々と作品へと形を変えていく様子に歓声を上げる子、ロボットやドローンに目を輝かせる子、英会話や囲碁の面白さに触れて笑顔になる子、バルーンアートやろくろ回し、パン作りや折り紙で苦戦しながらも一生懸命取り組む子、パルクールやバードゴルフ、フリースケートや弦楽器に夢中になる子など、それぞれが興味の赴くままに体験を重ねる姿が印象的でした。

体験を通して「できた！」という達成感や、「楽しい！」「またやりたい！」という声が自然と生まれ、初めて触れる体験に戸惑いながらも挑戦し、成功した瞬間には、あちこちで子どもたちの笑顔が広がっていました。

保護者の皆様からも、「子どもの新しい興味を発見できた」「思ってもなかったものに興味を持って驚いた」といった声を多くいただきました。短い時間の中でも、子どもたちの中に〝好きの芽〟が芽生える瞬間が、各所で生まれていたように感じます。

本事業は、さまざまな体験を通じて、子どもたちが自分の「好き」や「夢中」に出会い、そこから探究心や挑戦する気持ちを育んでいくことを目的に実施しました。与えられた選択肢ではなく、自ら選び、挑戦していく経験こそが将来の可能性を広げていく。今回の機会がその第一歩となることを心から願っています。

開催にあたって、多くの団体・店舗の皆様にブース出展や運営面で多大なるご協力をいただきました。また、地域の皆様からも温かいご支援・ご理解を賜り、事業を無事に実施することができました。ご協力いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

（記事：未来の宝育成委員会 委員長 中 直哉）

卒業生スピーチ

山本 恭平

皆さん、こんばんは。

まずは、このような貴重な時間をいただき、本当にありがとうございます。

正直、自分が卒業生スピーチをするということに実感が持てないまま今日を迎えましたが、この場に立たせてもらうと感慨深いものがありますね。少し時間をいただきますが、最後までお付き合いいただけると大変嬉しく感じます。

僕は尾道出身ではなく、いろんなご縁をいただいて尾道での生活がスタートしました。父の仕事の関係で、東京、茨城、佐賀と高校を卒業するまでに住む場所が変わり、大学進学で上京し、そのまま就職をして三十歳になる年に尾道での生活が始まりました。きっかけは、父が地元の尾道で起業をしたことでした。JCへの入会も父の勧めで入会することになり、2018年に入会をしました。正直、入会することに物凄く後ろ向きだったことを思い出しますが、今となっては入会させてくれた父と、どこの誰かもわからない僕に入会の声をかけていただいた先輩の皆様には心から感謝をしています。

そんな不思議なご縁から2018年に入会をさせていただいたのですが、2019年は小林委員長の下、幹事として拡大研修委員会に配属していただきました。当時は、いろんなことを言い訳にして参加しなくて済む方法ばかり考えていましたし、実際に例会、委員会と全く参加していませんでした。同期幹事だった松本裕太先輩には、連絡を取るたびに「俺はもうJC辞める。絶対やめる！」と駄々をこね、委員長の暢玄さんや委員会メンバーの皆さんには、本当に迷惑をかけっぱなしの1年間でした。本当に自分本位な甘い考えだったと反省しています。

2020年には小川委員長のもと、社会開発委員会に配属していただきました。パワフルな先輩が多く、特に当時委員長をされていた小川先輩はONとOFFのメリハリが素晴らしい方で、僕の中では憧れの委員長でした。

当時はコロナの始まりの年で、活動そのものが止まったこともあり、集まれる回数も少なかったですが、印象深い時間を過ごさせていただいた委員会でした。そして、この年で1番忘れることができないのが8月の総会です。そもそも1年目に全く出席していなかったので、総会で何が行われるかも知らず、「恭平君！総会は来てね！」と言われたので出席しただけのつもりでしたが、急に選挙の開票が始まり、同じ委員会の高升先輩と内海先輩から呼ばれて激励のお言葉をいただいて、初めて自分が置かれている状況を理解しました。その時は心の底から「嵌められた…」と思ったことを覚えています。しかし、その時に背中を押してくれた小川先輩、高升先輩、内海先輩はじめ委員会メンバーの皆さんには本当に感謝していますし、総会後に宮徳さんでお祝いしていただいたことは一生忘れません。

この年は、防災事業として市内の小学校に出前授業をしましたが、実は学生時代に教員になることが夢だったので、JC活動を通じて一瞬でも夢が叶ったことが本当に嬉しかったです。変な話ですが、JCに入って最初に良かったと感じた瞬間は、自分都合の出来事でした。本当に良い思い出です。

2021年は、安楽城理事長の下、副理事長に吉田雄太先輩、副委員長に髙山敦好先輩と一緒に組織活性化委員会の委員長を任せていただきました。この年は、本当に濃い1年で、コロナが明け始めた中で出来ることを模索しながら活動を行わないといけない環境下ということもあり、Zoomを活用した例会や、感染症対策を講じた対外事業など、会として今まで以上に様々なことに意識を向けた年だったと思います。

この年は、本当に沢山の方に助けていただいた記憶しかありません。特に吉田先輩と髙山先輩はじめ委員会メンバーの皆さんには、本当に迷惑を掛けました。何がやりたいのか説明ができない。説明ができないから議案書は書けない。そもそも言われていることがわからない。頭が悪い。人生で一番「すいません」を口にした年だったと思います。

それでも見捨てずにいてくれた皆さんには本当に感謝しています。特に卒業予定者だった加度先輩は、当時ブロック会長をされていて忙しいにも関わらず、いろんな相談に乗ってくれました。僕が夏期講習で「みんなで石鎚山を登りたいです！」と相談したときに「お前はバカだなー！」と言われ、「やっぱりこれじゃだめだよな…」と落ち込んでいると、「お前が思っている以上に茨の道だけど、どうせやるなら戦って死んで来い！」と背中を押していただいたことは本当に嬉しかったですし、その一言があったから実施に向けて頑張れました。ただ、蔓延防止が発令されて夏期講習が中止になってしまったのは心残りです。

編集後記

今年度のJCライフもご覧頂きまして誠にありがとうございました。
入会も浅い中、慣れない尽くしの委員長ライフでしたが、充実した日々は送れたのではないかなと思います。来年度は徳岡万里君が総務委員長として引き続きJCライフを発行していきますので、どうぞよろしくお願い致します。一年間ありがとうございました。

（記事：小田 康聖）

HP　facebook　Instagram

２０２２年は、半田委員長、小西副委員長の下、フロアーメンバーとして青少年育成委員会に配属していただきました。半田君は２０２０年に同じ委員会でしたし、当時幹事だった半田君はＪＣでできた初めての後輩でした。この年は、半田君の独創的な感性とユーモア溢れる人柄を物凄く感じることができて、毎回委員会は楽しく、例会や事業も委員会メンバーとして本当に楽しく活動に携われた１年間でした。半田君が所信に掲げた「今を全力で楽しむ」を体現していた素晴らしい委員長だったと思います。偉そうに聞こえるかもしれませんが、本当に尊敬できる後輩だと思います。来年は監事として、持ち前のユーモアと独創的な感性で半田君らしく楽しんでＪＣ活動を送っていってください。応援しています。

あと、大本先輩と岩井先輩の卒業旅行は、僕が幹事をするので絶対に行きましょう。

２０２３年は、吉田理事長の下、専務理事を仰せつかりました。２０２１年同様に吉田先輩には迷惑をかけっぱなしの１年だったと思います。事務局長に加藤雅崇君、渉外局長に村上康先輩、セクレタリーに岡村虹二君と向井豪佑君と、バラエティに富んだメンバーだったと思いますが、吉田先輩以外は全員入会歴５年未満という布陣で、今考えれば、このメンバーを選ばれた吉田先輩の思い切りの良さに衝撃を受けます。そんな思い切りの良い理事長の下で過ごさせていただいた１年は、僕にとってかけがえのない時間だったと思います。

この年は、25年ぶりに中国地区コンファレンスを主管しました。吉田理事長と実行委員長の平岡良之先輩を筆頭にキャラバンに行った後には、他ＬＯＭの専務理事から「尾道さんは本当に仲が良くて凄く雰囲気がいいね！」と言ってもらえることがとても嬉しかったです。当時、卒業予定者の島田元太先輩が「自分たちの年代で理事長が出ていないから、雄太の為に卒業生全員で頑張るよ！」と言ってくださったことも凄く印象深く、言ってくださった通り、２０２３年は卒業予定者の皆さんの出席率がとても高く、いろんな場面で助けていただいた年だったと思います。

２０２４年は、小林理事長の下で副理事長を任せていただきました。委員長は福本真也君、副委員長は亀田康寿君でした。初めての副理事長で委員長を受け持つ立場になり、自分が委員長の時にどれだけ恵まれていたかを実感する年でもありましたし、パートナーになった委員長が福本君で本当に良かったと思っています。決めたことは絶対に投げ出さず最後までやり遂げる行動力と、言われたことに対して疑うことなく信じ切ることができる、自分にないものを沢山見せてくれる委員長でした。多少美化されている部分もあるかもしれませんが、本当に「一生懸命の塊」そんなタイプの福本君も尊敬できる後輩の一人です。これからも福本君らしく笑顔で頑張っていってください。

そして当時の委員会メンバーの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。みなと祭りで終盤に雨が降りながらも実施したニンジャーランド、他ＬＯＭとの合同例会、雨が強まる中で参加したべっちゃー祭りの初日、大雨にもかかわらず実施した本事業。屋外の活動はすべて雨が降り、どれも急な対応が多く大変なことばかりだったと思いますが、福本委員会だから実施することができたものばかりでした。本当に楽しい１年間をありがとうございました。

そして今年は、理事メンバーをはじめ、たくさんのメンバー、そしてＯＢ特別会員の皆様に支えていただいている１年だと心から感じています。本当は一人ひとりにお礼を言いたいところではありますが、まだ本年度も対外事業があります。残りの期間も引き続き皆様のお力添えをいただきながら、最後まで走り抜けていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

ＪＣを続けていると沢山の壁にぶち当たると思います。やればやるほど壁は増えていくと思います。その時は本当にしんどいし、全部投げ出してしまいたいと思うこともあるかもしれません。ただ、その時に必ず助けてくれるのは、ＪＣで出会ったメンバーです。ここにいる皆さんも、僕がこれまでに出会ってきた先輩方も、悩みや相談をすると惜しみなく手を差し伸べてくれました。そんな素敵な人たちが集まっている組織に皆さんは所属していることを忘れないでほしいですし、何も心配せず思いっきりＪＣ活動に取り組んでいってほしいと思います。

来年は中島裕一朗君が理事長として皆さんを引っ張っていってくれます。理事メンバーを中心に、全員で素晴らしい１年にしていってください。皆さんのご活躍を心から願っています。

最後になりますが、僕はＪＣに入会したことで、本当に沢山の素晴らしいご縁をいただくことができました。そして、この町が大好きになりました。地元の人間ではない僕を受け入れてくださった先輩、同期、後輩の皆様に心から感謝申し上げ、卒業生スピーチとかえさせていただきます。本当にありがとうございました。

本日は、私の卒業生スピーチのためにこのような場を設けていただき、本当にありがとうございます。実は今日のスピーチはほとんど準備をせずにこの場に立っています。今年は理事長の挨拶のあとに私が話す機会が多く、そのたびに「今日は絶対に理事長を超えるスピーチをするぞ」と意気込んでいました。しかし文章にすると到底勝てません。だから今日は、取り繕うのではなく〝自分の人生観〟で勝負しようと決めてここにいます。私は１９８５年、岡本家の末っ子長男として生まれました。私にとって祖父と父は、幼い頃に背中で多くを教えてくれた存在でした。祖父はとても優しく、幼い私にとって大きな手が安心そのもののような人でした。父はＪＣ活動や仕事で忙しく、深夜に帰ることも多い中で、その姿から〝生きる強さ〟や〝覚悟〟を教えてもらいました。小学生時代は中川くんと毎日のようにブラックバス釣りに行き、ルアーが変な方向へ飛んで

「ちょっと待てよ！」と二人で慌てたことも、今では大きな思い出です。私はとにかく好奇心旺盛で、放課後になれば外に飛び出し、日が暮れるまで遊び続けるような子どもでした。中学・高校と進み、環境が変わるたびに仲間が変わり、経験が変わり、その一つひとつが〝自分で選び、自分で責任を取る〟という今の生き方につながっていきました。社会人になり家業に入り、31歳で社長になってからは、本当にがむしゃらに働きました。日勤も夜勤もこなし、朝4時まで働き、少し眠ってまた出勤する。携帯も片時も離さず、常に会社のことを考える日々でした。そんな中でずっと心の奥では「この働き方を65歳まで続ける人生が、自分の望む人生なのか？」と問うていました。もちろん仕事は大事ですが、自分が本当に生きたい人生とは違う気がしました。私のこれからの人生観について父に伝えるまで葛藤もあり時間がかかりましたが、話したとき父は短くこう言いました。「お前が社長なんだから、お前が決めろ。お前の人生だ。」この二言に私は救われ、自分の人生に正直に向き合おうと決めました。そして私は一つの答えに辿り着きました。「人生の最後に残るのは、思い出だけだ。」お金でも土地でも車でもなく、誰と出会い、誰と笑い、どんな時間を過ごしたか――それだけが最後に残ると私は思います。昨日のベッチャーの打ち上げも、最初は「今日はどうしようかな」と迷っていました。でも仲間の顔を見るだけで疲れがすっと軽くなり、「来てよかったな」と心から思えました。あいう瞬間こそが、〝思い出になる瞬間〟なんだと思います。そして、この思い出をくれた場所がJCでした。今年の委員会のみんな、本当にありがとう。聡汰、ゆりな、豪くん、ぼーちゃん、土井くん、中島くん、日暮さん、一年間ありがとう。僕を〝失敗した実行委員長〟にせず、〝やり遂げた実行委員長〟にしてくれたのは間違いなく皆さんのおかげです。全員が支えてくれたからこそ、あのブロック大会は成功しました。この一年で〝心から大切だと思える後輩〟ができたことを、本当に幸せに感じています。JC生活も人生と同じで、「何もなかった」で終わるのか、「本当にありがとう」で終わるのかは、日々の小さな選択の積み重ねです。行きたくない日もあると思います。でも一歩踏み出せば、必ず思い出が増えていく。だから皆さんには、胸を張って「JCがあってよかった」と言える日々を重ねてほしいと思います。私は来年からOBになりますが、これからも皆さんの成功と成長をずっと応援しています。長い時間お付き合い頂き、本当にありがとうございました。

日暮 泰広

皆さま、本日はこのような場でご挨拶の機会を頂戴し、誠にありがとうございます。

まず初めに、長きにわたり温かくご指導を賜りました先輩方へ、心より深く御礼申し上げます。

これまでの歩みを振り返ると、学びと経験、そして人とのつながりに支えられた日々であり、皆さまのお力添えがあってこその12年間であったと改めて感じております。

入会当初、地域教育実践委員会に所属し、島から山まで学校を巡って事業に携わりました。

行政や地域の方々と連携しながら一つの事業を形にする過程で、地域全体が力を合わせて未来をつくっている姿を間近で知ることができました。

事業は決して一部の力だけで成り立つものではなく、多くの方の想いと協力が重なり合って実現しているのだと実感したことは、今もなお私の活動の支えとなっています。

また、JCの活動を通じてさまざまな地域事業に関わる中で、とりわけ強く心に残っているのが、尾道の祭りに関わった経験です。

子どもたちが囃子の声を響かせ、太鼓の音が街を揺らし、地域が一つにまとまっていく光景に、祭りが持つ文化的な力と、土地に根づく伝統の重みを改めて感じました。

長く受け継がれてきた地域文化は、次の世代へと繋いでいくことで初めて未来に残っていくものです。

先輩から託された法被を次の世代へ受け継がせていただいたことは、そうした〝文化の継承〟の象徴であり、大変光栄なことでございました。

この地域に育てていただいた一人として、これからも伝統が息づき続けることを願っております。

JCは、異なる業種や背景を持つ多くの方が集まり、それぞれの視点を持ち寄りながら地域の未来を考え、行動する場です。

20歳から40歳という限られた期間で活動するからこそ、その中で築かれる絆や得られる学びは特別なものとなります。

私にとっての12年間は、まさにかけがえのない財産であり、人生を形づくる大きな経験となりました。

どうか皆さまには、残された時間を大切にし、挑戦を恐れず、地域の未来に向けて歩み続けていただきたいと思います。

拡大委員会をはじめ、これまで所属した委員会では、多くの仲間に支えられながら活動を続けてまいりました。

自らの力だけでは決して達成できなかった多くの事業があり、そのたびに仲間と共に歩むことの大切さを実感してきました。

支えてくださった皆さまには、感謝してもしきれません。

今後はOBとして、必要な際には微力ながら力を添えられる存在でありたいと考えております。

JCで得た経験、つながり、学びは、私のこれからの人生においても確かな支えとなり続けるものです。

皆さまの今後の活動が、地域にとっても、ご自身にとっても実り多いものとなりますよう、心よりお祈り申し上げます。

簡単ではございますが、卒業生としてのご挨拶とさせていただきます。

12年間、本当にありがとうございました。